

# 寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No. 102 2025.9.18

発行 寝屋川市自然を学ぶ会

会長 山田 晃

事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9

千田 正喜 宅

TEL 090-4036-0719



みんなの掲示板の自然観察会 伊吹山 2025.08.19

イブキフクロ↑

うさぎさんが きてね

うさぎさんが きてね

おなまえ つけてと

いいました

ピョンタと つけたら

ピョンと はねて

うふんと わらって いきました

まど・みちお

すずめさんが きてね

おなまえ つけてと

いいました

チュンコと つけたら

チュンと ないて

うふんと わらって いきました

まどさんの詩の本 あのうた このうた 理論社刊

## 目次

(2) 行事報告(1) 第3回定例自然観察会 水生生物  
第2回みんなの掲示板 伊吹山・山室湿原

(3) 行事報告(2) 夏休み子ども自然教室

子ども自然シリーズ講座④⑥ 夏休み自由研究・科学実験

(4) 行事報告(3) 自然体験学習室だより

子ども自然シリーズ講座⑤⑦ 大人自然シリーズ③④

(5) 行事報告(4) 夏休みの自然体験学習室・私の散歩道

(6) 参加協力行事・協力活動

・木田小まつり・図書館科学講座・ふれあい子ども  
フェスタ・望が丘ランチ・エスポ クラフト

(7) 特別寄稿 植物生態学「花はどうして美しい？」

(8) 自然はすばらしい シダ植物 10「イタチシダ」

(9) 自然界のふしぎ 海の火山 2「海溝火山」

(10) 私の自然観察 身近な昆虫 50「クワカミキリ」

(11) 図書紹介 『あなたの中のふしぎ DNA』

お知らせ 展示会の日程 新会員紹介

(12) 行事予定 定例自然観察会 ④四條畷 田原地区

⑤深北緑地 ⑥寝屋川公園

みんなの掲示板 ③シダの観察 ④紅葉

野外活動センターの環境整備②③ 編集後記

## 第3回定例自然観察会 水生生物

7月12日(土)

参加者 42名(内子ども 15名)

## ～オイカワの婚姻色きれい！～

今年も、天気にも恵まれましたが、酷暑中での観察会になりました。メダカとカダヤシの違いなど川の生きものについての話があり、川に入りました。



魚とぞ！

最初に、講師の新城さんの投網があり、オイカワ、ヨシノボリ、ドジョウ、モツゴ、カマツカなどたくさんの魚が捕れました。

その後、子どもたちはたも網をもって魚捕りに挑戦。川岸や茂みを探って、スジエビやヌマエビがとれ、バケツなどに入れていました。「エビが捕れた」「魚が捕れた」「ヤゴが捕れた」などうれしい声が聞こえてきます。途中一度上がり、

再度挑戦し、時間が来たので名残惜しみながら川から上がりました。

水槽には、オイカワ、ヨシノボリ、ドジョウ、モツゴ、カマツカ、アメリカザリガニ、カダヤシ、ヤゴ、カワニナ、シジミ、タニシなどが入っていて、新城さんから、オイカワのきれいな婚姻色やアメリカザリガニの雌雄の区別などの話を子どもたちは楽しそうに聞いていました。

「エビや魚が捕れて楽しかった」「オイカワとか勉強になった」などの感想がありました。



投網 投げた！



オイカワきれいね

## 第2回みんなの掲示板 伊吹山高山植物と山室湿原 8月19日(火) 参加者 21名

## ～励まし合い・助け合いながら～

中村 清秀

猛暑の寝屋川を離れ、降りたった伊吹山は心地よい涼しい風が吹いていました。参加者は 21 名。西コースを登り始めた途端“この小さくて白い花、何て言うの？”“この黄色い花は？”“クガイソウとルリトラノオの見分け方は？”等、花に詳しい参加者に聞くことしきりでした。下見の時に撮った花の資料も随分役に立ったようです。伊吹山の冠を付けたイブキトラノオ、イブキフウロ、イブキジャコウソウを始め、キオン、カワラナデシコ、イワアカバナ等、皆さんは何種類の花を見つけられましたか？

山頂近くまで登って来るとさすがに汗だく。お互いに声をかけたり、しんどくなった人のリュックを持ってあげたり、励まし合いながら全員山頂へ。昼食後集合写真を撮り、東・西コースに分かれて下山。東コースでは青紫色のトリカブトの花が見



網の内側では、きれいなシモツケソウなどが！

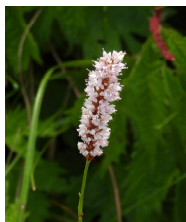
山室湿原では清楚で可憐なサギソウが見事でした。ミミカキグサ、サワアザミ、モウセンゴケなどが見られ、赤色のハッコウトシボ(♂)も観察できました。夏の湿地はさすがに蒸し暑く、バスに乗る前に用意された冷たいカルピスやお茶のサービスはまさに地獄に仏、生き返りました。

伊吹山の自然に触れることに満足しつつ、人とのつながり、励まし合い、助け合う素晴らしさを感じられた観察会でした。



山室湿原 観察のようす





イブキトラノオ



イブキジャコウソウ



ワレモコウ



キオン



ルリトラノオ



トリカブト

## 夏休み子ども自然教室 「夏休みの自由研究のヒント」を見つけよう

□子ども自然シリーズ講座⑤

7月19日(土)

子ども16名(他30名)

### ①生きもの大すき

～生きものを そだててみよう～

講師の山本さんが家で育てている虫たちの話です。去年の9月に見つけたカブトムシの卵の成長記録。幼虫が、少しずつ大きくなり、やがてさなぎになる様子を問題を入れながら分かりやすく説明されていました。

次に、卵の写真を見せ、「誰の卵かな？」と子どもたちとのやり取りがあり、「卵をみて、成虫が分かってよかった」の感想がありました。



カブト さわれた！

### ②メダカの飼育と観察

身近な魚でもあり、絶滅危惧種に指定されたメダカについて中井さんが分かりやすく話されました。

メダカの由来は、目が高い所にある、目がでかいからとか言われているそうです。他に、メダカのオス、メスの違いや寿命は2～3年であることが分かりました。最後に、水草に産み付けられた卵がかえった赤ちゃんメダカの飼い方まで話されました。

「メダカのことが知れて、良かった」おみやげにメダカを持って帰りました。



わかりました！

□子ども自然シリーズ講座⑦

8月2日(土)

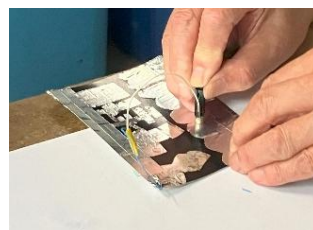
子ども17名(他28名)

### カミナリの科学 ～カミナリはなぜできるの 人工カミナリ イナヅマ君～

講師の坂野さんから、カミナリは雲の中で発生し雲にたまった電気を地面に向けて逃がそうとする時に起こるという話があり、ペットボトルの中で雲を作る実験をしました。

次に、人工カミナリに使う圧電メカ(チャッカマンの火花など)の説明後、アルミ箔で雲と建物や木などを切り抜いて黒い紙に貼り付けます。圧電メカ的一方をリード線で地面であるアルミ箔に付け、雲のアルミ箔の圧電メカをグイッと押すと「パシッ」と音を立て雲と建物などの間に火花がカミナリのように飛びます。圧電メカの押し方に慣れず苦戦していましたが、あちこちで「やったー」の声。圧電メカが火花を出すと、音が鳴る器具があり、圧電メカに金網をかぶせると器具が反応しないことから、鉄でおおわれている中(例えば車の中)はカミナリに安全であることを教えてもらいました。

「楽しかった」「カミナリが少しかわいく思えた」などの感想があり、子どもも周りの大人も感動した講座でした。



カミナリ落ちた！

# みんなでつくる自然資料室だより

## □子ども自然シリーズ講座

### ⑤水鉄砲 7月26日(土)

子ども15名(他25名)

用意されている竹の筒、竹の棒、スポンジ、布等を組み立てていきます。まず筒の先に水の出る穴を慎重にあけ、次に棒にスポンジと布で水が漏れないように調整して押し棒を作ります。この時が一番大切だそうです。出来上がった水鉄砲を持って駐車場で遊びました。子どもたちはびしょぬれになりながら楽しそうに的を狙っていました。

「よく飛んで、楽しかった」とうれしそうに言っていました。



ねらって!

### ⑦水辺の生きもの 9月6日(土)

子ども13名(他18名)

水辺に親しむ会の新城さんが、身近な水辺の生きものについて話をされました。寝屋川市で見られる魚を教えて?と子どもたちに質問した後、市内では35種類の魚が確認されていることを話され、主な魚については映像を見ながら説明されました。また、カメ・エビ・家の近くで見かける哺乳類についての話もありました。子どもたちは、熱心に聞いていて、休憩のときには持ってこられたカメ・タウナギをさわって楽しんでいました。感想に「手の長いエビが知れてよかった」と。



カメがいます

## □大人自然シリーズ講座

### ③木のブローチ(コノハズク)

6月19日(木) 参加者31名

皆さんが楽しみにされているイベントの一つです。コノハズクについて、鳥に詳しい中井さんから話があり、その後、木のブローチ作りをしました。森本さんから、削る時の注意のあと、カッターナイフを持ってひたすら木を削っていきます。スタッフと森本さんの助言を得て、最後に思い思いの色を着けて完成です。「これは、ブローチにせずに、裏



皆さんの作品

に磁石を付けて飾ります」「いいのができました」と胸に飾って帰られました。

### ④木の葉のアート

7月17日(木) 参加者21名

初めに、木村さんから広葉樹の葉の話がありました。葉を日にかざすと葉脈が網目状に見える異圧葉と、不明瞭な等圧葉があるという話です。火にあぶると弾ける音がします。不思議ですね。その後、18種の落ち葉と多数のパンチを使ってアートに挑戦です。パンチで穴を開けたり、はさみで整形して作品を作ります。できた作品をラミネートしました。



「かわいいね、すごいね」とお友達に作品を評価され、うれしそうでした。

この葉っぱは!

## □夏休みの自然体験学習室

今年の夏休みは熱中症危険アラートがでるほどの毎日でしたが、学習室は水分補給を気にしながら予定通り進められました。

夏休みの活動日は7月23日から8月25日までの26日間で、ほとんど毎日午前午後とも親子で賑わっていました。予定していたイベントは例年通りの賑わいでした。その他の日には、どんぐり工作、折紙、ダンボールの工作、木工など全86種類もの工作をして、延べ467名の子どもと256名の大人が楽しみました（一日平均27.8人）。ほぼ毎日来た近くの子、市民フェスタで楽しかったから来たという親子、以前来ていた中学生が友達と一緒になど、多くの方が来られ「楽しかったので、また来ます」と帰られました。



どんぐり工作



巻 絵



ダンボールの城



コリントゲーム



レインボーごま

## 私の散歩道

友呂岐緑地のサンゴジュ

大嶋 眞砂代

今年の夏は、猛暑日が続き、強烈な日差しに負けて毎朝の散歩道も日陰の多い所を探すことに。友呂岐緑地は、背の低い木々が切れ目なく植えられ、東側に土手もあって絶好の日陰道です。ソメイヨシノ、クスノキ、ナンキンハゼなど、涼しい木陰を提供してくれる木々の中で今回紹介したいのは、サンゴジュです。

密生した葉の間にまるでサンゴのような赤い実が房状に垂れ下がり、散歩でくたびれた目を楽しませてくれます。美味しそうですが、小鳥たちは関心を寄せません。不思議に思って調べてみると、季節が進んで真っ赤だった実が黒紫色になるころには、スズメ、ヒヨドリ、メジロなどが食べにくるそうです。寒くなるころ、サンゴジュの下で小鳥たちを待つのも楽しみです。「今日も寒いね。」なんて言いながら。



サンゴジュ



## 参加・協力活動

地域団体などと参加・協力活動を進めました。多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

### □木田小まつり 6月28日(土)

協力者4名

皿回しとブンブンごまで参加しました。

皿回しは、紙皿の底に切り取った紙コップの底の部分張り付け、重くするためもう一枚紙皿を重ねテープで止めると出来上がり。出来たらまる箸を使って皿回し。初めはう



色塗りをしている

まく回らなくてもコツをつつかむと上手く回ようになります楽しんでいました。ブンブンごまは、回ったらどうなるかなど考えながら色塗りをしていました。

### □図書館科学講座 ー磁石のふしぎー

7月27日(日) 子ども19名(他31名)

図書館の夏休み学習支援企画講座です。講師の塚本さんが身近にある「磁石」について実験をしながら分かりやすく話されました。まず、硬貨、キャップ、缶、スプーンなどが磁石につくか確かめます。そして、N極とS極の違いを知り、方位磁針で実験です。最後に、電磁石を作って多くのクリップを付けて楽しみました。どの子どもも熱心に取り組んでいました。磁石につくかな？



### □ふれあい子どもフェスタ

8月3日(日)

協力者5名

参加268名

昨年まで行われていた市民活動センターの市民フェスタは、今年度は6つの分野で行われます。初回は、子ども中心のイベントとして「ふれあい子どもフェスタ」が市民会館で行われました。

本会は従来通り「年間活動の紹介」と「手作り工作」での参加です。会の活動の紹介をパネルで行い、子ども向けの工作（ブンブンごま・こまの色ぬり）をしました。特に、知らない子たちが色塗りをしたこまで対戦し合って仲良く遊ぶ姿が印象的でした。



ブンブンごま作り

### □望が丘ランチ

8月5日(火)

子ども65名 協力者4名

市立望が丘ランチでの催しで、子ども向け①工作指導②手芸指導があり、「工作指導」でどんぐり工作をしました。

4つのテーブルがあり(24人)満席で、待っている子どもでぐらいいました。グルーガンを使って、見本の作品を参考にしたりして、思い思いに作品づくりを楽しんでいました。ケーキを作りたいと見本の写真や段ボールなど用意をしてきて、スタッフの助言を受けながら挑戦する子どもも。



工作楽しいな

### □エスポ クラフト

9月7日(日)

子ども15名 協力者3名

エスポアールに出向き、竹こま、トリックカード、ジュズダマネックレスを作りました。ジュズダマについては山田さんが実物を持ってきて説明されました。どの子どもも静かに手順を聞き、ていねいに作っていました。出来たこまで対戦して楽しく遊びました。「トリックカードは難しかったけど、できて良かった」「お母さんに見せてビックリさせたい」の感想がありました。



ジュズダマの話

## ＜特別寄稿＞ 植物生態学 花はどうして美しい？

本 多 政 雄

花はみんな美しいですか、といわれると、そうとは限らないと答えます。秋になると淀川河川敷にはアキノエノコログサやキンエノコロがたくさん見られます。これらエノコログサ属の花はどこにあるのでしょうか？

エノコログサ属はイネ科の一年草、冬を前に多くの小さな粒の実を実らせませす。ルーペでのぞいてみれば雄しべ、雌しべが見られます。写真を撮るのであればマクロレンズのついたカメラが必要ですが、スマホでルーペで見る程度の写真は撮れます。100円ショップで売られているスマートフォンレンズセット（写真参照レンズは3種あります）を使えばいいのです。スマホのカメラレンズの前につければOKです。



アキノエノコログサにはきれいな花びらはありませんが、風を受けて花粉を散らす雄しべ、花粉を受け止めるためのふさふさのモールのような雌しべが見られます。機能性は認められますが、見て美しい花とはいえません。

なぜエノコログサ属の花は美しくないのでしょうか。それは、この花が花粉の運搬を風に依頼している「風媒花」だからです。風は生物ではないので、おしやれをして気を引く必要はないというわけです。では、昆虫などの活動で花粉の運搬をしている植物は、どのような作りになっているのでしょうか。きれいな花びらは、お客の気を引くための舞台装置です。しかし、自然界の客たちは、美しいだけでは花に来てくれません。実益が必要なのです。そこで、花はごちそうを用意してお客を誘います。それは蜜と花粉です。人間の食べ物に当てはめれば、蜜は炭水化物中心のカロリー食、花粉はタンパク質のリッチな栄養食品です。蜜を作らない植物もあります。

お客の大半は昆虫です。チョウやガ、ハチのほか、ハナムグリなどの甲虫類、ハナアブ、ハエ、カ、ガガンボなど多種多様な虫が花に食事に訪れます。

花と虫の関係は、レストランとお客の关系到似ています。人間社会のレストランにはファミリーレストランや専門店がありますが、花のレストランも同様です。どんなお客をターゲットにどんなお店を開くかは、その経営戦略によって花の色や形は異なります。香りもお客を呼び寄せる重要な要素です。例えば、ハナアブやハエは大衆客。あまり器用ではないので、平面的で着陸しやすい上向きの花や花の集合がお好みです。口も短いのでごちそうは浅い器に盛られたセリ科やキク科の花がよいでしょう。

一方、花粉を効率よく運んでくれる虫をセレクトし、その他は排除するという、いわば会員制の高級レストランのような花もあります。例えばミツバチやマルハナバチなどのハナバチ類やチョウ類で、特にアゲハチョウの仲間は花の色や形を学習し、同じ種類の花を選んで的確に飛ぶので、花にしてみれば花粉運搬効率の高いリピーター客になります。赤紫色の花はハナバチ用、朱赤色の花はアゲハチョウ用です。この色は他の昆虫には見えづらい色なのです。



アキノエノコログサ



セリ科花と昆虫



コセンダングサ花とキタテハ



オニユリ花とアゲハ

## 自然はすばらしい

## シダ植物シリーズ10

## イタチシダ オシダ科

天野 史郎

イタチシダはベニシダとならび北河内の人里から山地にかけて普通に見られます。オオイタチシダ、ヤマイタチシダ、ヒメイタチシダの順によく見られます。イタチシダという和名は、と昔前はヤマイタチシダにあてられていましたが、近縁種が多く混乱をさけるためイタチシダは総称とされ、今ではイタチシダで特定の種をさすことはなくなりました。

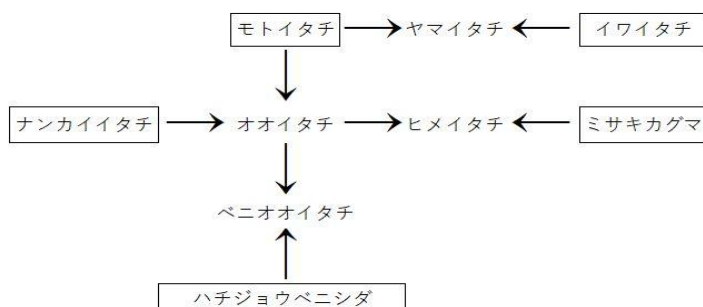
イタチシダの特徴は、右図矢印で示した最下第一小羽片が最大になることです。ベニシダでは同じところが縮小します。和名の由来は葉柄基部に黒い鱗片が密生するさまをイタチになぞらえた、いろいろな本に書かれていますが、いかがでしょう。

この近くで見られるイタチシダは無配生殖種で、特にヤマイタチシダとオオイタチシダは中間的な形態のものがあ、分類がむづかしいものでした。10年ほど前、有性生殖種と無配生殖種が複雑にからみあって成立したイタチシダ類の解明に若手研究者の堀清鷹氏がいどみました。まだ発見されていない未知の有性生殖種を設定することで、イタチシダの交雑の仕組みを説明できると考えたのです。その予言通り屋久島で未知のシダを発見し、これにモトイタチシダと名づけ新種記載し、イタチシダの交雑の仕組みが明らかにされました。まさに快挙というべきです。右下に簡略化した図をあげました。同時に新種とされたベニオオイタチシダは比較的によく見られ、オオイタチシダとハチジョウベニシダとの交雑により生じたものです。ベニシダ系のゲノムが入っているためイタチシダ類でありながらベニシダの雰囲気をつただよわせています。オオイタチシダはナンカイイタチシダとモトイタチシダが交雑、ヤマイタチシダはイワイタチシダとモトイタチシダが交雑、ヒメイタチシダはオオイタチシダとハチジョウベニシダが交雑してできたものです。

複雑なイタチシダが、このように明快に解明される日がくるとは思ってもいませんでした。若手研究者の今後のさらなる活躍に期待したいものです。



オオイタチシダ



四角で囲んだものは有性生殖種、矢印はゲノムの移動方向を示す



## 自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「アンモナイトのふしぎ1～4」に続いて、今年度は「海の火山1～4」をお届けしています。

### 海の火山2

### 海溝火山

西村 寿雄

日本の海溝部火山は北海道沖や九州南部、沖縄近海にもありますが、なんといってもいろいろ話題をふりまくのは伊豆大島沖火山列でしょう。

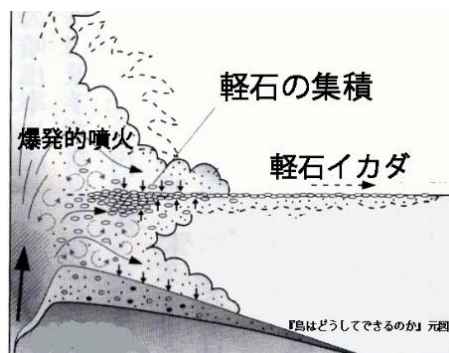
昨年度、硫黄島付近で急に噴火が起きたくさんの軽石が沖縄県にまで流れ着いて話題になりました。福岡の場火山です。

火山噴火でも軽石が起きるのはよくあることですが、陸上火山ではほとんどその火山の近くにばらまかれるだけです。しかし、海底火山では特有の現象があります。溶岩が水中で急冷すると海水が気化し溶岩は爆発的に粉砕されたくさんの軽石が発生します。やっかいなのは、その軽石の気泡が抜けずいつまでも水面に浮かぶことです。浮かんだ軽石はまるでイカダのように海流に乗って広範囲に広がります。軽石は固い岩石の破片ですので各地の海岸の被害は広がります。海底噴火が起きるとほかにもいろいろと被害が起きます。

海底火山はもともと小さい島(カルデラ内部)が多く噴火したものの溶岩流は少なく火山島は消えてしまうことがあります。2021年に起きた福岡の場火山も新島誕生後まもなくほとんど消えてしまいました。また、静かだった海中で突然噴火が起きると急に津波が発生して近くの海岸に被害をもたらすこともあります。

もちろん、いいこともあります。新たに出来た火山島は長く噴火を繰り返すことで新たな島に成長する場合もあります。その住民は被害を覚悟しなければなりません、地球の躍動的な姿を実感でき、動植物の生態研究の拠点となりえます。観光資源としての価値も高まるのではないのでしょうか。

広い太平洋・大西洋には、今まで書いてきたプレートの火山列以外の火山もあります。単独火山です。単独火山にはどんな〈火山〉があるのでしょうか。次回をお楽しみに。



**私の自然観察****身近な昆虫 50****クワカミキリの生態とその魅力ー**

高本 憲二

日本には約800種を超えるカミキリムシが生息しています。その多様なカミキリムシたちの中で、ひととき存在感を放つのが「クワカミキリ」です。私の田舎では、毎年盆前から秋にかけて畑のイチジクの幹にやってきて樹皮を食害する姿をよく見かけます。今回は、その特徴、生態、私たちの身近な環境との関わりについてみてみましょう。

**1. 特徴と見つけ方**

クワカミキリは灰黄褐色のビロード状の微毛で覆われており、黒と白の縞模様の触角が特徴です。クワやイチジクの木で見かけることが多いです。

**2. 生態と生活史**

成虫は広葉樹の1年枝の樹皮を好んで食害し、幼虫は生木の心材部をトンネル状に食べ進めます。このため、木が枯れたり、強度の低下によって風で折れる原因となり、果樹園などでは害虫とされることがあります。2～3年1世代。春から初夏にかけて蛹化する。



クワカミキリ成虫



クワカミキリ成熟幼虫

**3. 自然界での役割と人間との関わり**

害虫とされる一方で、自然の生態系の中で重要な役割を果たしています。木の分解を助け、他の生物の生息環境を作ることにも貢献しています。

**おわりに:**

クワカミキリはその美しさと生態の奥深さを通して、私たちに自然観察の楽しさを教えてくれる存在です。皆さんもぜひ観察してみてください。

**※クワカミキリの基本情報**学名: *Apriona japonica*

体長: 32～45mm

分布: 本州、四国、九州

出現時期: 6月～9月

参考文献: 新カミキリムシハンドブック

## 図書紹介

～こんな本が出たよ～

## 『あなたの中のふしぎ DNA』

中村桂子/文 はたこうしろう/絵

たくさんのふしぎ 4月 福音館書店

ついに DNA の話が「たくさんのふしぎ」に取り上げられた。それだけ今は細胞の研究も身近になっている。著者は長らく生命誌研究館に館長でおられた中村桂子さん。中村桂子さんは、この本で生き続けることの大切さをうったえる。「一つの個体が・・・子孫に命をつなげ 40 億年間とゞされることなく続いてきたのです。」(付録・ふしぎ新聞)とも書いている。

まず、チョウたち昆虫の話が出る。「人間と昆虫とは仲間だってことです!」といきなり書かれている。人と昆虫は動物仲間といえそうだけど・・・と飛躍した考えに納得。やがて「仲間は動物だけじゃないんです。」と出てくる。ほかにいるの?とっていると・・・。

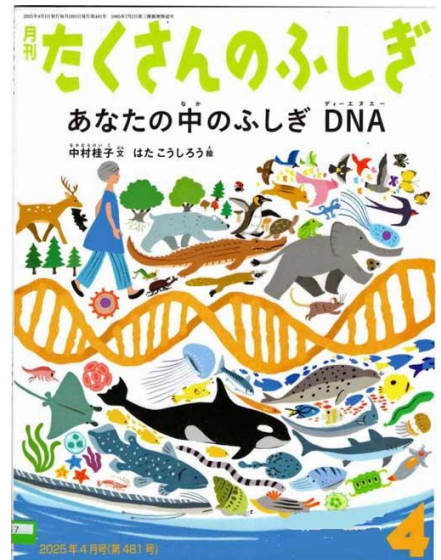
ここで細胞の話が出る。生物は細胞が基で生きている。そういえばそうだ。バクテリアは1個の細胞であるが人間の大人は数十兆も細胞があるという。一人の人間はこれだけの細胞を操って生きているのかと不思議に思う。さて、次に出てくるのが細胞内の DNA。まず出るのはあのらせん階段のような図。ここでアデニン(A)、チミン(T)、グアニン(G)、シトシン(C)の4つの塩基の話が出る。

そこからがこの話の核心にせまる。その DNA のはたらきについて以下にまとめられる。①は遺伝の話、「あなたが生きている間ずっと両親から受け継いだ DNA が・・・」、②はタンパク質の話。タンパク質をつくる働きが DNA にあるという。DNA は筋肉や骨を作る。③は成長と進化の話、DNA は多様な生き物が地球上に現れた根拠となっている。

ここまで来ると、生き物はみんな同じ仲間だと納得できる。DNA は「わたしたち生き物の歴史を語るのです」「自分がそのなかにいるかけがいのない存在」としめくくっている。少々込み入った文もあるが DNA について子どもにもよくわかる絵本となっている。

2025 年 4 月 736 円

&lt;西村 寿雄&gt;

**お知らせ****展示会の日程が決まりました**

○2025年度 展示会「私の自然観察」

日 程 : 2026年1月22日(木)～28日(水)

会 場 : アルカスホール 1階ギャラリー

**作品の募集**

「自然」に関わる写真などをお寄せください。

詳しくは、次号でお知らせします。ご予約ください。

**新会員紹介**

会員数164名

(敬称略)

坂野 玲子

國吉 孝



# 行事予定

## □第4回 定例自然観察会

### 里山の自然 四條畷・下田原

～里山の樹木・野草・キノコ～

◇日時: 9月23日(火・祝)

9:30～15:00 雨天中止

◇集合: 飯盛霊園バス停付近 9時30分

◇持ち物: 弁当、水筒、雨具、帽子など  
身近な自然ガイドブック「里山を歩こう」

◇案内: 田中英明さん 上田 豪さん

## □第5回 定例自然観察会

### 深北緑地 昆虫観察

～昆虫さがし・バッタ飛ばし・バッタクイズ～

◇日時: 10月 5日(日) 9:30～12:00 雨天中止

◇集合: 深北緑地管理事務所前  
(第1駐車場横) 9時30分

◇場所: 緑地内・深野池付近

◇持ち物: 網、虫かご、水筒、帽子など  
身近な自然ガイドブック「虫をさがそう」

◇案内: 高本憲二さん

## □第6回 定例自然観察会

### 寝屋川公園 どんぐりウォッチング

～どんぐり拾い・どんぐり工作ほか～

◇日時: 11月22日(土) 9:30～12:00 雨天中止

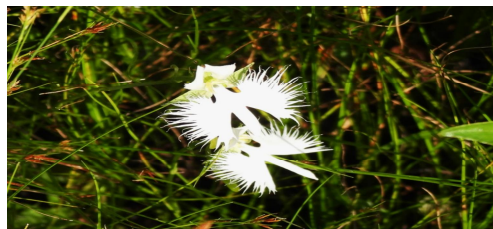
◇集合: 寝屋川公園管理事務所前 9時30分

◇コース: 管理事務所→ふれあいの丘→  
つきみ橋→時計塔 (ここで工作をします。)

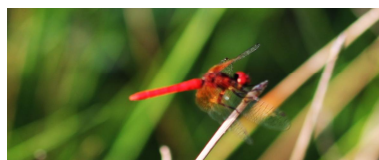
◇持ち物: 水筒、雨具、筆記用具など

身近な自然ガイドブック「どんぐり」

◇案内: 木村雅行さん



サギソウ 山室湿原



ハッチョウトンボ

## みんなの掲示板・自然観察会

### 第3回 シダの観察

◇日時: 10月13日(月・祝) 9:30～12:00

◇集合: 私市植物園正門前 9時30分

◇持ち物: 水筒、帽子、雨具など

◇案内: 天野史郎さん

◇下見: 10月 2日(木) 日程は当日と同じ

### 第4回 当尾の里 京都府木津川市

～岩船寺から浄瑠璃寺コース～

◇日時: 11月25日(火) 9:00～16:30

◇集合: 京阪寝屋川市駅東側  
アルカスホール前 午前9時

◇持ち物: 弁当、水筒、雨具など

◇参加費: 4,000円程度(拝観料含む) 25名

◇マイクロバスを利用します。

◇参加申込: 11月19日(水) までに下記へ  
中村(090-8750-5738) 千田(090-4036-0719)

## □野外活動センターの自然観察と環境整備

◇日時: その②: 10月 7日(火) 10:00～14:00

その③: 12月 2日(火) 10:00～14:00

◇集合: 野外活動センター 10時

◇持ち物: 帽子、水筒、雨具など

◇内容: 自然観察と環境整備

\*お楽しみ昼食あり

◇参加申し込み: 下記へ

その②: 10月 3日(金) までに

その③: 11月28日(金) までに

千田(090-4036-0719) 東森(090-5645-1531)

## 編集後記

会報102号は、本編12頁をカラーでお届けします。活動の記録をより身近に感じていただけたでしょうか。

9月も半ばを過ぎたというのにまだまだ暑い時期が続き、熱中症の心配はありますが、秋の虫たち、紅葉、どんぐりなど楽しい自然に触れる活動をみんなで進めたいと思います。ご参加よろしくお祈いします。

\*自然を学ぶ会のHPです。

